

持続可能で利便性の高い 公共交通網を町内に形成するため

6月16日(木)名古屋大学大学院環境学研究科の加藤博和准教授をお招きし、豊山町の公共交通について、議員勉強会を行った。

加藤准教授は、豊山町地域公共交通会議の副会長であり、国の公共交通に関する審議会等の委員を歴任されるなどこの分野での第一人者である。勉強会は、今後の公共交通のあり方について、議会が一体なって考えていくうえで、非常に有意義なものとなった。

来年3月に北部市場まで乗り入れている名古屋市営バスを名古屋空港まで延伸する社会実験を行う。



空港への乗り入れは、アクセスの充実や空港の利用促進などにつながるが、バスネットワークの観点からは課題もあるとのこと。

現在、あおい交通が空港から名古屋駅や勝川駅に、名鉄バスが空港から西春駅に、また「とよやまタウンバス」が町内を巡り名古屋栄や小牧市内へ運行している。これらの複数のバス路線と適切な役割分担を行い、一体的かつ効率的に機能することができると「鍵」となる。

町民が利用しやすい公共交通にしていくことは言うまでもないが、同時に持続可能なものとするためには、社会実験の調査結果等を踏まえてバスネットワークへの影響を考えていかなければならないなど多くのことを学ぶことができた。

